

Contents ● 当院の広報活動について ● 私の介護観 ● 栄養科の取り組み ● 医療相談室の紹介

当院の広報活動について

広報委員長 松尾直樹

当院では質の高い慢性期医療とホスピスでの緩和ケアを提供するとともに、地域の皆様にその活動を広く知っていただけるよう広報活動にも力を入れています。今回は当院で行われている広報、教育・啓発活動についてご紹介いたします。

1. 広報活動

① ホームページ

患者さんやご家族、医療関連施設、地域住民に向けて定期的な更新を行っていますのでぜひご覧ください。ホスピスの「さんぼみち blog」では、ホスピスの日常風景や緩和ケアについての情報を掲載しています。

② 広報誌

患者さん、ご家族、地域住民の方に当院を含むWITH YOU グループの広報誌「WITH YOU」を年1回発行しています。また当院の療養病棟を中心とした広報誌「外旭川病院だより」、ホスピス病棟の広報誌「さんぼみち」の年2回の発行をしています。



③ 年報

医療関連施設向けに詳細な当院の医療サービスに関する情報を年1回発行しています。

2. 教育・啓発活動

① ホスピス緩和ケア市民公開講座

毎年4月にホスピス・緩和ケアの普及、啓発活動、ボランティア養成のためのホスピス緩和ケア市民公開講座を開催。毎年60～100人程の参加があり、一部の参加者はホスピスボランティアとして活動しています。

② ホスピス研修会

院内外の医療福祉関係者を対象に、緩和ケアの専門的な医療知識や技術向上を目的とした全11回の研修会を実施しています。

③ Akita 地域緩和ケア勉強会

秋田県の医療関係者の緩和ケアの知識と技術の向上を目的として、秋田大学医学部附属病院緩和ケアセンターとの共催で年5回、開催しています。

④ 秋田市北部緩和ケアネットワーク

秋田市北部地域の医療福祉関係者と地域連携を中心に語り合う場として、年に数回開催しています。

3. 地域交流

① 地域講演会

毎年10月に地域住民との交流を対象とした地域講演会を開催しています。認知症やうつ病など身近な病気の講演や高齢者向けの筋力トレーニングの講習などを実施しています。



② 地域懇談会

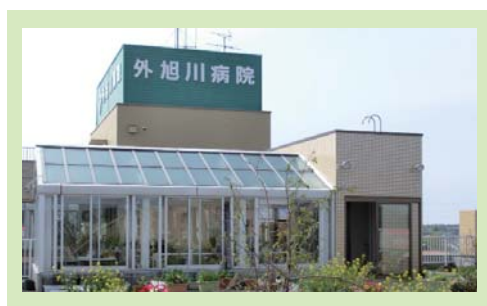
毎年11月に、地域住民の役員の方々へ当院の運営、活動状況を報告し、意見交換や交流を兼ねた地域懇談会の開催を行っています。

私の介護観

3病棟看護補助者主任 堀米 玲子



私は「お年寄りの食事介助や散歩の仕事」の募集で外旭川病院に入職、資格もなくゼロからのスタートでした。働きながら介護福祉士の資格を取得し、ふと気が付けば30年が経とうとしています。その間に結婚、出産などさまざまなことがありました。色々悩みながらも続けられたのは、単純に介護の仕事が好きだから、外旭川病院が好きだからで、私の人生の半分以上は病院の色に染まっています。



私が勤務しているのは、療養病棟で56床、看護師、看護補助者(介護士)合わせて36名のスタッフが24時間体制で患者さんのケアをさせていただいています。療養病棟では多くの患者さんが歩くことや立つこと、身体の向きを変えることが1人ではできません。人工呼吸器を使用している患者さんも数名いらっしゃいます。

病院って病気を治す場所？病気が治ればそれで良いのでしょうか。大好きな家族と離れ、寂しさや不安でいっぱいになりながら治療のために入院しています。家族が面会に来てくれた時のとても嬉しそうな表情や話し方、私たちには普段見せてくれない一面があります。



患者さんのケアでは、入浴や食事の介助、排泄援助も大切な仕事ですが、私は少しでも苦痛や不安を取り除き、安心して治療を受けることが出来るようにサポートすることが、介護をしていく上で一番大切なことと考えています。会話や意思表示の出来ない方は、ナースコールを押し私たちを呼ぶことが難しいため、こちらから患者さんのそばに行くことにしています。朝は必ず病室を回り挨拶をし、話しかけています。声を掛けることで「今日も来てくれた」という患者さんの表情が伺えるようになりました。また、毎日患者さんに触れ合うことが「いつもと違う、何か変」という異常の早期発見、治療に繋がることもあります。

私たちは、患者さんのあたりまえの日常を維持できるよう、ベッドではなく車椅子に乗り、皆で集まり食事を取る、日中は寝巻きではなく部屋着に着替えるなど普段の生活に少しでも近づけるよう取り組んでいます。

常に患者さんの命をお預かりしているという緊張感がありますが、家族にしか見せなかった表情をスタッフにも見せてくれるようになった時や、経管栄養だった患者さんが努力をして口から食事を取れるようになった時などは、「やったー」と患者さんと一緒に涙を浮かべて喜んだり、元気になっての退院、「ありがとう」の言葉、笑顔を見せてくれた時など、この仕事を続けて本当に良かったと思える瞬間がたくさんあります。これからも、患者さんの笑顔のために病棟スタッフと共に取り組んでまいります。

外旭川病院の取り組み **栄 養 科**

栄養科科长 小谷野 千恵子
管理栄養士



私たち栄養科では、食事は治療の一環であると同時に、患者さんの楽しみの一つとらえています。患者さんには毎日の食事をおいしく衛生的に安全に召し上がっていただきたいと考えています。当院は、高齢の患者さんが多いため、柔らかくて食べやすく、味のしっかりしたものが好まれます。当院の給食は真空調理が中心ですので、食材が軟らかく仕上がり、加熱後すぐ冷却するので、少ない調味料で食材全体に味が染み込むためしっかりとした味付けに仕上がります。そのため患者さんからは、とても美味しいと高評価を得られています。食事形態については、昨年からきざみ食を廃止し、日本摂食嚥下リハビリテーション学会が提唱する学会分類 2013 に合わせた給食を開始しました。既製品だけではなく、真空調理をして軟らかく仕上げた野菜や魚、大豆製品等も利用しているので、食材の美味しさや季節を感じていただけたと思います。そして、嚥下食は、同グループの介護付有料老人ホームグリーン・ソフィー、介護付高齢者優良賃貸住宅ほのかとほぼ共通の食事を提供しているため、患者さんがグループ施設内で移動しても、同じように安心してお食事を召し上がることができます。

当院では、行事食を毎月実施しています。病院の給食は、家庭の食事と比べると変化が乏しいのが現状です。日常と異なる変化のある行事食を楽しんでいただくために、普段の給食では使わない食材、食器やトレイを使って特別な給食になるようにしています。写真は4月20日、お花見行事に合わせて作ったお花見弁当です。春の食材をふんだんに使って、栄養士、調理師とみんなで作りました。患者さんからは、いつもと違う給食で喜ばれる姿や、山菜の天ぷらを食べながら、山菜採りをした時のことを楽しそうにお話されている様子も見られました。

お花見 弁当



普通食



やわらか食

患者さんが給食を食べて、笑顔で喜んでいただくことが私たちの励みになります。これからも皆さんにご指導いただきながら、患者さんに喜ばれる給食を作っていけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

医療相談室のご紹介

入院に関するお悩みはわたしたちまで

当院の医療相談室には、社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員などの資格を持った4名の医療相談員がおり、患者さんが安心して治療、療養していただけるように入院前から退院後まで様々な心配ごとや不安についてご相談をお受けしております。実際に下記のようなお問い合わせをお受けしております。



入院前の不安

- 外旭川病院を紹介されたけど療養・ホスピス病棟ってどんなところか実際分からない。
- 入院を申し込みたいけどどんな手続が必要か。
- 入院費の支払いが高額で大変そう。

入院時のお悩みや不安

- 退院が必要になった場合、自宅での生活は可能なのか。
- 介護保険の申請や施設への申し込み方法が分からない。
- 身体障害者手帳など社会福祉制度の利用方法や申請の仕方を教えてほしい。

私たち医療相談員は、医師、看護師、栄養士、リハビリなどの院内スタッフや他の医療機関、介護施設と連携をし、患者さんやご家族のさまざまな不安や問題を取り除けるようお手伝いさせていただきます。相談内容については、秘密厳守いたします。相談の費用は一切いただきません。下記までご相談・お問い合わせください。

お問い合わせ ☎ **018-868-5511** (月～金 9:00～17:00)



じゅんけいかい
医療法人 惇慧会

外旭川病院



〒010-0802 秋田市外旭川字三後田 142

☎ 018-868-5511 FAX 018-868-5577

E-mail sotohp_kouhou@jkk-sotohp.or.jp

ホームページ <http://jkk-sotohp.or.jp/sotohp/>

さんぼみち BLOG <http://sotoasahikawahospice.blogspot.jp/>

■ 病床数 241 床 (療養病棟 207 床、緩和ケア病棟 34 床) 【診療科目】内科、皮膚科、リハビリテーション科

理念

人間を大切にする企業風土をつくり、
人間を幸せにする企業を目指します。

指針

1. 何事にも積極的に挑戦します。
2. 創造力を働かせ、新しい価値を創っていきます。
3. 地域と共に生き、地域に貢献できることを喜びとします。